

学校評価シート（自己評価）令和２年度分

ひさみ 幼稚園

1、園の教育目標

子どもたちに豊かな環境を保障して、子どもたちが環境との出会いの中で、驚いたり、感動したり、発見したり、考えたり自らの興味や関心の要求の質を高め、豊かなあそびや仕事のある生活を展開し、人間としていちばん大切な生きる力を身につけられる保育を目指している。

2、具体的な目標や計画

幼稚園の教育方針を教職員全体で共通理解を図って保育の質を高めていく。園内研修の定期的に行い、教職員間で相互理解と協力体制を整え、幼児理解と適切な援助方法を学ぶ機会を設ける。幼稚園の特色である動物飼育や自然遊びに継続して重点を置き、よりよい環境や設備を整えながら、子どもの心身の健やかな成長につなげていく。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
保育者の資質向上	A	保育者全員が『幼稚園教育要領』をもとに、子どもの主体的・対話的で深い学びを大切にしつつ、より専門性をもって保育に臨む姿が多く見られた。また「子どもと共に育つ」という意識をもって、子どもとの毎日を大切する様子も多々見受けられた。さらに、自粛期間中、個々の技術を磨くことや園内研修会に時間を費やすことができた。教員同士の情報交換もでき、お互いに高め合う姿も目立った。
新型コロナウイルス対策	A	新型コロナウイルス対策としての安全面、健康面、衛生面を強化した1年であった。特に手洗いやうがい、消毒、マスクの着用、検温の生活習慣を徹底し、換気などの配慮を行った。また、保護者の出入りを最低限度にして、3密を満たす行事の中止や縮小した。ホールのエアコンを新しくすると共に、換気設備を導入するなどの対策を講じた。この1年、結果的に感染者が0で終わられたことは安堵感を覚えている。
保護者との連携	A	新型コロナウイルス感染症の影響で、保護者のケアも必要な中で、園だよりやクラスだより、ホームページなどで情報発信に努めることができた。また、連絡簿などで丁寧に子どもの健康面や発達面での状況を伝えることができた。保護者会の活動も、縮小傾向にあったが、特別な配慮をとりながら子どもたちの笑顔のために取り組んで頂けたことは大きな収穫となった。

小学校との連携	B	新型コロナウイルス感染症のため、小学校児童との交流や小学校探検、幼稚園・保育園・小学校合同連絡会を行うことができなかった。但し、就学前は年長児一人ひとりの情報交換会を綿密に行うことができた。また、発達支援児やグレーゾーンの子どもの引継ぎ会を設け、情報伝達を綿密に行うことができた。
ICT の活用	A	4月から6月までの2か月に及ぶ自粛期間では、子どもたちと対面できないという今までにない緊急事態を迫られた。そこで「ひさみチャンネル」を設け、YouTube 動画配信を行った。内容も各学年で工夫しながら様々なコンテンツを作って配信し、オンライン保育を実施した。また、WEB カメラや音声マイクを購入し、操作方法などを学び、卒園式にはリアルタイム動画配信を行うことができた。これらは今後も応用できるもので、コロナ禍で得た産物と言える。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	<p>新型コロナウイルス感染症による自粛期間を経て、教職員一人ひとりが改めて子どもの命の尊さや保育ができる喜びなどを感じ、6月から真摯に子どもたちと向き合い、主体的で対話的な保育を展開できた。また、自粛傾向が続いたことで、各保育者が保育技術の向上や保育教材の準備などに時間を費やすことができ、より資質を高められた。園内研修を通じても保育者一人ひとりの資質の向上が顕著に見られた。さらに保育者同士の情報交換がスムーズになり、園全体としての保育力も上がったと思われる。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策が最重要課題となったが、手洗い・うがい・消毒・マスクの着用・検温など徹底し、換気などもこまめに行った。園行事の中止や縮小も余儀なくされたが、子どもの発達の保障を大切にしたいという思いが強く、色々と工夫しながら行事を実施することができた。それには保護者の協力も大きな要因と言えるだろう。ICT の活用を積極的に取り入れ、時代の変化に即した対応ができたことも良かったと思われる。今後も感染症対策が必要となるので、引き続き徹底していきたい。</p> <p>令和2年度は制限のある中であつたが、ひさみ幼稚園が大事にしている自然豊かな環境の中で、主体的で思いやりのある子どもの育成は十分成し遂げたと言える。また、さらなる保育者の資質向上や働き方改革、家庭や小学校との連携など課題はあるが、これからも様々な社会状況の変化をキャッチしながら、適切な保育を行っていきたい。</p>

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育者の専門性の向上	ここ数年、保育者全員の保育力が高まっている傾向にあるので、さらなる資質の向上を目指していきたい。園内外の研修会、保育現場での実践経験、保育教材の勉強、保育者間の情報交換から、保育者としての専門性や能力・良識・適性を高められるようにしていきたい。
安全教育の強化	昨今、誘拐や不審者などの発生により、小さな子どもが犠牲となる痛ましい事件が多発している。そのため、保護者や外部の訪問者に名札を首にかけて頂くなど、セキュリティ対策をとっていきたい。また、災害や不審者対応マニュアルなどを訓練し、防犯対策も強化していく必要がある。
新型コロナウイルス対策	新型コロナウイルス対策として、引き続き安全面、健康面、衛生面をより強化していく。特に新入園児は手洗いやうがい、マスク着用、消毒、換気を早めに習慣づけていきたい。また、保護者の出入りを最低限にしたり、3密を満たす行事の中止や縮小したりする必要がある。ワクチン接種の動向にもよるが、感染者の状況など県や市からの情報をキャッチし、柔軟かつ迅速に対応していきたい。
特別支援教育	発達支援児への援助が課題になる中、視覚的な教材の有効性が高いことが分かってきた。そこで、絵カードを作成し、視覚化した援助を試みていきたい。また、引き続き、専門機関との連携も綿密に行っていきたい。
仕事の効率化	教育界でも働き方改革が求められる中、保育者の負担軽減にも取り組んでいきたい。特に連絡簿や日誌、発達記録、週案などの書き物への負担が多くなっているため、連絡簿は保護者の理解を得ながら簡素化していきたい。簡素化しつつも子どもの発達など大切なことはしっかりと伝達できるように効率化を図っていく必要がある。
子どもの発達と環境整備	老朽化した遊具の修繕をして、子どもの安全面の配慮や環境の再構築を考えていきたい。また、園の敷地が広いため、教職員全員で草むしりや大掃除を定期的を実施して環境の維持に努めていきたい。必要な遊具や教材を新たに購入して、子どもたちの遊びの発展につなげたい。